

『石清水物語』第三系統諸伝本に関する研究(二)

宮崎, 裕子
九州産業大学国際文化学部 : 講師

<https://doi.org/10.15017/1445859>

出版情報 : 文献探究. 51, pp.5-12, 2013-03-30. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :



『石清水物語』第三系統諸伝本に関する研究(二)

宮崎裕子

- 1 しつかならさりしに此御事も又大殿もことなくておはしつるう
 - 2 れしきことにおほされつるにまたかくおはすれはいかなるへきと
 - 3 おそろしくおほしおとろくとりわきおとろく／＼しくなとはあら
 - 4 ていつとなくおなしさまに日数のみつもりてくるしうし給へは
 - 5 みたてまつる人／＼いかにをせんと歎くに中納言の君を御あたり
 - 6 さらすおほしたれはこまかによろつあつかいきこえ給ふあまた物し
 - 7 給はんにをろかなるましき人の御さまを大将殿は大かたもおも
 - 8 しくものし給へははちらいてこまかなる御思ひは中納言を
 - 9 思ひまさり給へり御心ちのなくさめには御あたりさらすとおほ
 - 10 したり東のたいの君もかゝる御心ちの程はわたり給てあつかひ
 - 11 聞え給此きんたちのおはするにもつゝましけならず大将殿
 - 12 などさはかりもの／＼しくはつかしけにけたかき御まみなとの
- 【35オ】
- 1 さしむかひにくけなるにもへたてたるけしきなくおもなくつき／＼
 - 2 しくあいしつらひ給へるを中納言は人しれす思ひくらへられて
 - 3 ほゝゑまれ給心のうちそはつかしかりける文はたえすつかはす
 - 4 とのもその後は御心にかゝりてゆかしくおほさ^る○れとこの御なや
- 5 みによろつことさめて文はかりそたへすある同しさまにて
 - 6 月頃に成ぬいかなるへき御事にかとおほしなけいはいけなきひ
 - 7 いなあそひの頃よりわくかたなく思ひかはし給へる御なかなればた
 - 8 物えんしのかた一ツこそさかなしともいはれ給へ大方はあかぬこと
 - 9 なくおほすれは浅からすのみ思ひきこえさせ給へるに御とし
 - 10 の程もいまた盛にきよらにおはしませは大将殿などはた
 - 11 御はらからのやうにおかしけにおはすれはおしくあたらしと
 - 12 みなおほしなけきたり大将殿の二らうわか君とりはなち
- 【35ウ】
- 1 てこなたにてやしなひたてまつり給五六はかりにていとうつ
 - 2 くしけにてかゝる御心ちの程もあたりはなれすかなしとおほし
 - 3 たるを今しはしも見きこゆましきこそあはれなれとて
 - 4 なき給へは御顔をうちまほりてすてゝはいつちへおはすへきそ
 - 5 まつくしておはせとてなき給へは誰もあはれにかなしくてなくさめ
 - 6 聞ゆあに君はけんふくして少将ときこゆ中はひめ君にて今
 - 7 よりけしきことにかしつき聞え給ふ中納言のいまゝてかゝる人の
 - 8 物し給はぬかさう／＼しきこといかならんあたりにてもさることあら

9 は
 とのみつねはの給はずれとめつらしけなる事はおほしもうけすか
 10 く
 おなしさまにわつらひたまふほとに月日によそへてよはりまさり
 11 給てたのみなくなり給へはさき／＼もしるし有しかはとてよ河の
 12 僧都をよひ聞え給へとみたりかくひやうにとりこめられてえをき
 1 ゐる事もなしと申給へはたのみなくおほしなきて山／＼
 2 寺に願たてあしをそらに思しまとへとかひなくて神無
 3 月朔日に終にはかなく成給ぬ思ひまうけたる事なれとさし
 4 あたりたるかなしきは誰もうつし心おはせんや殿はたゝおなし
 5 さまにならひふし給てことほりにも過たる御けしきを今はいふかひ
 6 なき御事はさる物にてまた是をもてはつらひきこえてとかくな
 7 くさめ聞え給扱しもあらぬわさなれはけふりとなし奉るほどの
 8 かなしさ思ひやるへし内春宮大殿をはしめ奉りて御つかひとも
 9 たちこめはいとさはかしとのほうつし心もおはせずほれまとひなけ
 10 き
 11 ふし給へは大将殿所々の御かへりもきこえ給ふ中納言はわれに
 12 もあらぬけしきにておはする〇ころは一すちに御いのちのふへき
 1 よしの事のみかしかましきにてゆすりみちたりしにひき【36ウ】
 1 かへあらぬさまにをこなひたる宵あかつきのれいしせんほうをは
 2 りのゑかうのさまなといつよりの御名にかあるときくたひに
 3 なみたのもよほし也みむろ戸の僧正も御忌にこもり給て大
 4 かのさほうしとりもちをこなひ給ふ七日／＼のこと御このかすに

【36才】

5 たいのひめ君もいとなみ給たのもしきかけにかすまへられ給るに
 6 かくうちすてられ給ていと心ほそくたゝよはしき御身なめり
 7 何事をもしめ／＼と思ひいれぬ御けしきなるはかりそ心やす
 8 けなりける中納言君はさらたにそこはかとなく物のみなけ
 9 かしくよしなき事にしみにし心はあるまじきすちにしもあや
 10 にくなる物なれは心にかゝりておほさるゝにかゝる御歎さへあれは
 11 いとゝ世もあちきなうおほしつゝけられていつとなくすゝもちて
 12 御きやうにのみ心を入つゝ明しくらし給くるき御そにやつれ給
 1 るしもそみるかひは猶まさりけるとそうせにしひたちのかみか
 2 子はおさなくてかしまといひし今はおとなひていよのかみと言国
 3 をめくらししてさるへきつはものならひととして三月つゝ京にの
 4 ほりて大はんといふ事をつとむる事むかしより今にたゝふな
 5 らひなりければかのいよかすへきにあたりて長月のすゑよりみや
 6 こにのほりてしたかへたる物かすしらすくにのうちにもの外にこほりに
 7 も
 8 ありければかゝるおりにあへとていくらといふことなくつゝきの
 9 ほりけるをはこゝのへのかためにすくりとりて京にをさわか身は
 10 まゝ母の住こわたに屋かすなとあまた有ければ中のついちをへ
 11 たててなん住ける日ころすくるに心ほそけ成しに引かへ馬くるま
 12 ひまなくいて入しけくなりてこゝかしこのあれたりし所／＼
 つくるはせなとしてこよなくたのもしくみゆくにの物とて色ゝ
 【37ウ】

1 のきぬかさねやうの物おほくあまうへにもとらせ中によるしき
 2 をはひめ君の御かたへとて奉なとしてよろつにはくゝみければ
 3 けにかゝる人なからましかはたれをたのもしきかけにも思はましと
 4 あまうへは思ひけりさまかたちをはしめて心さまなさけくしく
 5 何ことのおかぬとおほゆることなくすぐれたりければ身を分た
 6 らんにもまさりてかなしき物になん思ひけるとしの程よりもしつ
 7 まり心にくゝかたちはあくまであい行つきて心のおくゆかしきさ
 8 まは人にこと也けり春秋とさためかねてめてのゝしら給とのゝ
 9 君たちはさいへと人からにしたかひて思ひなしもけたかくなまめき給
 へ
 10 ることこそおはすれこれはやうかはりてあい行こほるはかりにて
 11 いかによやみるにたゝならずそゝろに思はしきさまかたちなど
 12 はたればかりの人にもをとるましようみゆるをなかにのみおひ
 【38オ】
 1 いてたれとかたほならずさはかりいとあらくしかるへきおくのゑ
 ひ
 2 すの名をとりなからいかはかりのつとめによりてかくしもむまれい
 3 てけんとさきの世ゆかしき人のさま也くにかみなる人おさなくよ
 り
 4 いひちきりてかしつくむすめにあはせけれといかなるにか心さし
 5 思やうならてよのつねはうちかたらふにさもせずさましけなる
 6 なからいにてのみ過しけるをくちをしき事に女は思ひなからみるめ
 7 のなつかしきによろつ思ひなくさみてうらみをもつみなきさま
 8 にしのひ過しけるのとや○なるひるつかたいよのかみあまうへの
 9 かたへ行たるにみえ給はねはいつくにおはするかといへは十はかり

10 なるわらはひとりみたるかひめ君の御かたへ参給ひぬるこのゑ
 11 御らん○とて爰にもまかさせ給といひてまきよせたるをみれば
 12 いみしきゑのさま也うつくしき女のかみなかきをかきたる所を
 【38ウ】
 1 見てかゝらん人をみつけはやといへは是をたにさの給かひめ君のおま
 へは
 2 こよなくまさりたる物をみたてまつり給へりやといふにみゝとま
 3 りて見まくほしくは思ひきこゆれとえみす見えぬへき所あらはみち
 4 ひき給へかしといへはまるこそ物よくみる所はしりたれいさ給へみせ
 き
 5 えんといふかおかしくてきは道ひき給へ人にしらせてみせたらはひい
 なも
 6 おほくたてまつらんといふをうれしと思ひたるけしきにてあしおと
 7 せておはせといひてさきにたちてゆくおさなきものゝいふにしたか
 ひ
 8 てあふなけれとゆかしき心はずゝみてやをらあゆみよればひやうふ
 を
 9 たてふたきたるうちへいれて中のさうしにむしくひとをしたる
 10 あなの有をおしへおきてわれはありつるゑまきはてゝもちて参り
 11 ぬよりのそけはまことによくみゆやうたいかしらつきよりはしめて
 すへ
 12 ていひつくすへきやうもなくみるめもかゝやくはかりなる人のねひ
 とし
 【39オ】
 1 のをりてかみのつやなとかけ移るはかりにてらうたくにほひやかに
 は

2 つかしけなるまみうちかほりてけたかさもあつめいはんかたなし中納言

3 の御もとより参らせられたるうつほのゑなりけりあまうへにことは
4 よませて見給なひきかゝりたるひたひかみはをくれたるすぢなく何こ
と

5 にかあらんこと葉をきゝてうちゑみたる御くちつきあい行はあたり
6 までこほれちりてめもおとろかれて思ひわきたるかたなくやかて

7 むねはふたかりぬみるとも／＼あく世あるましきを多とも見はてゝ
8 人ゝたちのきなとすればみつけれやせんとおそろしくてたちのき
ぬ

9 むけにいけなくものゝ心しらさりしほとはとき／＼もみたてまつ
り

10 いま五はかりのかみにおはすればもてあそはれたてまつりしもわつか
に

11 ゆめのやうに思ひいてられるれと御かたちなどいかなりしとおほゆる
ま

12 てはなかりつるをおとなひ給てのちはこよなくけとをくのみならひ
【39ウ】

1 てまたおなし処にもすますなりにしかはかけをたに見きこえさり
2 しに何ことにかゝることをみてよしなき物思ひつきぬへき身にも

3 なりぬるかなとこしかた行末思ひつゝけられてなかめられぬれと
4 さらぬさまにもてなしてあまうへのかたへまいりて侍つれとみえさ
せ

5 給はさりつるといへは御せうとの中納言殿よりうつほのゑまいら
6 せ給つるをこと葉よむやくにかゝりてひさしかりつゝと何こゝろ

7 なくいへときく人は心はこゝろとしてむねのみさばくをしつ
8 めてそも／＼いかにしてかくとはしられたてまつり給へるにかとゝ

9 へはわか心にうとからすへたてなきもさる物にてかの御身にもよろ
つ

10 たのもしきかけにはこれをのみこそしてすくひ給へはあらぬ
11 さまにいひかくしてもをのつからあることはもれきゝてへた
12 て有けると思はれんもあいなかるへければおほえなかりし【40オ】

1 程にみたてまつり給ていひわたり給し春のことよりうち
2 はしめありのまゝにかたりきかすればあやしうもふみまよひ
3 給へるをたえのはしかなとほゝゑみたるいはんかたなくあい行

4 つきて物はいひなから心はそらなればまきはしきはこの御こと
に

5 みゝとゝめてのとかにゐたればめつらしくおほえてとのゝの給へる
6 ことなどかたり出つゝいつしかたいめんも心もとなけにの給ひしを

7 みやのうせさせ給てよろつもおほしたゝぬさまになん御いみは
8 てはむかへたてまつらんとていつとなく埋木にてのみ過させ給

9 しにかくしられ奉りてかすまへられ給はんはいとうれしけれとかた
10 時たさらすならひきこえてわかれたてまつらんのみこそ忍ひかたか
る

11 へきとてめをしのこへはわれしもすゝみ出る涙はついてとめ
12 せられてこほれおつるもはしたなくおほえてまきはしくて

1 けにおやこの御ちきりと成なからけふまでしられたてまつらせ給
2 はさりつるとし月のことはいふせくて過させ給ぬるかたも御うれへ

3 浅からぬと女はらからたに又たくひもおはせさらんにまことのお
【40ウ】

4 やならぬと二宮かくれ給て後おと二君たちはかりおはする処へ
 5 むかへられさせ給てんむけにたつきなくすみにくこそおほさ
 6 れめきたかにしられたてまつらせ給なは何事にもきたまらせ
 7 給はんほとはた中かくて物せさせ給へかしと猶ちかくて吹かふ
 風
 8 もなつかしかりぬへきまにおとなしくいへはあまうへもけに
 9 さることと思ふはらからなりともいはけなくよりそひならはし
 10 たることなくて今はしめてみつけたらんか猶よそ人と思ひてし
 11 みかへりなん心はあるましき中ときなすともさりとてひたみ
 12 ちに心きよくはなりかはらしをとをしはからるにはこの【41才】
 1 御有様のみる人たなるましきにうしろめたきなるへし
 2 うつほのゑを参らせ給へるもことしもこそあれとおもひあは
 3 せられてなかずみの侍従に思ひよそへ給にやと心のうちに
 4 あんせらるゝもかれは何さまにもあれけちかく見たてまつり
 5 給はんにもなくさみて過給へしわれこそ雲のよそにたに
 6 たのむかたなき歎はそひてかすならぬ身をくたくとも
 7 さりとて露のあはれをかゝるへきにもあらぬを何につけてか
 8 なくさむかたのあらむなと思ひつゝくるに人しれす物のみかな
 9 しくておもふ事なくて過にしむかし也さらてたに昨日となれ
 10 は恋しき物なるにせるへせしわらはさへうらめしく覚えて
 11 なかめふしたりよのつねのわかうとのやうにあたしき
 12 所なくとしのほとよもしつまりてよろつ思ひ入たる物にて
 【41ウ】
 1 われよりとしのかすもつもりたる人たにおやたちそひてたのも
 2 しけなるおほかめるになとしもひとりならずほとなく別け

3 んと身を心ほそく思ひしりてよのつねはさらしかちにて
 4 おやたちの後の世をとふらひ我とてもかきりあるいのち
 5 のうちにいまはのゆふへをのとかにまつへきのみならずいか
 6 なるさはきもあらはた今にかきる命にてもやと世はかり
 7 そめにのみおほゆれはこんよにたにかてうれへなからん大せう
 8 せんこんの道に入て人をも利やくせんと思ひつゝ法の道を
 9 ならひさとけりけり木の葉をさそふ嶺のあらしはけしく吹
 10 おろして時雨あらしかとき分すあらましき風のおとにそ
 11 ろに物あはれ也さるへきはならんにてたにその道には
 12 まとふ人おほくこそむかしも今もいひならはしたる物なる【42才】
 1 に及なきことをしも心にはなれずさるはかくとたにしられたて
 2 まつるましき身のほとも今さら心うく思ひつゝけられて夜もす
 3 からうちもまともす佛にのみおほえて恋しく思ひいて聞るを
 4 こはいかなる物思ひのつきぬるにかあらんわか心なからいみしくいま
 5 し
 5 むれとかなはぬわさ也けり殿には限ある日数はてぬれは人くも
 6 かつへはまりて僧とも出ちりぬれは又今更ことに御心さし深かり
 7 し
 7 かは殿はつきせず覚し入てほれしきまてみえ給へはたれも心くる
 8 しう
 8 みたてまつりあつかふこわたのさとへも常にをとつれ給てたいめんも
 9 心許なき
 9 をかゝる歎のほとにとこほりぬるこの程過してときこえ給へり五せ
 ち

10 臨時のまつりなど大宮人のいとまなき頃もとの君たちはまし」

11 らひ給はねはいとつれ／＼になかめくらし給まゝにいひかはし給」

12 所へも御ふみ計はたえすひめ君の御許へもおかしき絵物語など」

【42ウ】

1 たてまつり給かきりなかりしさまもいみしく恋しくてわたり給」

2 はんと思したつ其ころはいよかのほりて人しけかなるをさのみ忍」

3 ひても今さへ人わろかるへしと思して引つくるひてわたり給うとか

ら」

4 ぬとも人もあまた参る殿上人など御ともにてけしきことにておはす

る」

5 よそおひ山かつのめをとろきぬへし入給て御せうそこしたれば新殿

の」

6 南に御くるまよする程かしかましくおいのゝしりたるすいしんのけし

きしたり」

7 かほにうけはりてみゆ入給けしきいひしらすけたかくなまめきておほ

ろけ」

8 ならん人ならひきこえんはまはゆかりぬへしにふめる色にやつれ給へ

る」

9 しもかくてこそ光はそふ物なりきれいひしらすあてにみえ給をいよ

も」

10 かくれみ奉る御はらからとてむかひきこえ給ふらんにけにたとしへな

から」

11 ぬ御あはひなめりと思ひくらへらるゝにもまつむねはふたかりては

ゝ」

12 かる所なくさしむかひ見奉り給ふらんと思ふも浦山敷なとしも」

【43オ】

1 数ならぬ身にしたかはておほけなき物思ひのそひぬらんと心をいま

し」

2 むるにしもあやにななる物なれはいや増りにのみ思えて物なけかし

き」

3 より外の事なしひんかしのもやのおましにしとねまいりて相の君」

4 入奉るあま君たいめんし奉りて宮の御事などとふらひ聞えてこの」

5 御事も行衛しられたてまつり給はさりしも中／＼心うつくしうあつ」

6 け聞えさせ給なはめさましとも思ひきこえさせ給はしと思ひ聞え」

7 させしを折しもかゝる御事にせめて女おやにそひ聞え給ふましき」

8 御ちきりもうらめしくなとけはひよしつきてめやすくみゆけに」

9 みたてまつり給なはおろかにはよももてなしきこえ給はしさる人も

10 たらぬかそう／＼しとてとりむすめして侍しも打すてられて心」

11 ほそけに侍めりたいめんなくて過給ぬるいとほひなくなどの給ひ」

12 ていつらと心えなけに思たればそゝのかし聞ゆみしかき木丁に」

【43ウ】

〈校異〉

35丁オ をはせん—石おはせん

5行 あつかい—石あつかひ

6行 をろかなる—石おろかなる

7行 はちらい石はちらひ

8行 あいしつらひ—石あひしつらひ

3行 とのも—石とのも

おほさ〇れ—石おほされるカ

4行 たへす—石たえす

5〜6行 ひいなあそひ—石ひひなあそひ

7行 一ツ—石一

36丁オ

5行 まつ—射・石まつろカ

9行 めつらしけなる事—石めつらしけなる事キカ

おほしもうけす—石おほしもうけすカカ

12行 かくひやう—石かくひやう脚病カ

をき—石おき

36丁ウ

1行 たのみなく—石いとゝたのみなく

4行 かなしさ—石かなしき

6行 はつらひ—石わつらひワ

11行 おはする〇ころは—石おはするころはヒカ

12行 かしかましきにて—石かしましきにてマ

37丁オ

4行 をこなひ—石おこなひ

37丁ウ

2行 おさなく—石をさなく

3行 つはものならひ—石つはものゝならひノカ

4行 たゝふ—射・石たえぬタゝ

6行 したかへたる物—射したかへさる物タカ

9行 住こわたに—石住むこはたに

38丁オ

5行 何こと—石ゆこと

5〜6行 分たらん—わけたらん

6行 程—石ほと

6〜7行 しつまり—射しなまり

38丁ウ

7行 あい行—石あい行キヤウ

2行 むまれ—石うまれ

3行 おさなく—石をさなく

5行 うちかたらふにさ—石うちかたらふわさワ

6行 なからい—石なからひ

7行 うらみ—石くらみ

8行 のとや〇なる—石のとやかなるカカ

11行 御らん〇とて—石御らんせとてオカ

39丁オ

5行 おかしくて—石をかしくて

7行 おさなき—石をさなき

9行 むしくひとをしたる—石むしくひともしたる

10行 おしへ—石をしへ

参り—石まゐり

39丁オ12行〜ウ1行 ねひとしのをり—石ねひとゝのをりトケカ

39丁ウ 1行 らうたく—射らうさく

4行 をくれたる—石おくれたる

何こと—石何く

12行 けとをく—石けとほく

40丁オ 1行 処—石所

4行 まいり—石まゐり

5〜6行 まいらせ—石まゐらせ

6行 ひさしかりつゝ—石ひさしくりつる

7行 さはく—石さわく

10行 すくひ—石すくい

11行 をのつから—石おのつから

4 0 丁ウ 4行 まきはしきは—石まきはしには

6行 かたり出つゝ—石かたり出つる

10行 たさらす—石た^{ちか}○さらす

11行 をしのこへは—石おしのこへは

4 1 丁オ 3行 浅からぬと—石浅からぬと

3ゝ4行 おやならぬと—石おやならぬと

4行 おとこ君—石をとこ君

12行 をしはからるゝ—石おしはからるゝ

この—射^のこめ

4 1 丁ウ 1行 たゝなるましき—石たゝならましき

4 2 丁オ 1ゝ2行 たのもしけなる—石たのもしけなるも

3行 さらし—射さうし 石さうし^{精進}

6行 さはき—石さわき

7行 うれへ—射とれへ

4 2 丁ウ 3行 のみ—射^{みか}のと

4行 いかなる—射^かいゝなる

6行 まりて—射^かまりて 石まかて

8行 こわた—石こはた

をとつれ—石おとつれ

物語—石物かたり

4 3 丁オ 5行 よそおひ—石よそほひ

をとろきぬ—石おとろきぬ

6行 おいのゝしり—石おひのゝしり

4 3 丁ウ 2行 あやにななる—石あやにくなる

3行 まいり—石まゐり

5行 行衛—石行へ

しも—石しかと

11行 ほひ—石ほい

12行 いつらと—射^かいづもと 石いつらと

心えなけに—射^{モト}心えなけに 石心えなけに

〔付記〕

一 本稿を成すにあたり、本居宣長記念館、射和文庫、石水博物館には、貴重な資料の閲覧・掲載許可を賜りました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

一 校本の作成に際しては、科学研究費補助金基盤研究(C)・研究課題番号 22500236・「文字列データ解析システムの構築と平安朝文学の伝本と表現に関する総合的研究」(研究代表者・福田智子氏、研究機関・同志社大学、平成二十二〜二十四年度)において、坂田桂一氏(同志社大学文学研究科博士後期課程)が作成された「校本作成支援ツール」の提供を受けました。ここに記して、深謝の意を表します。

一 本稿は、平成二十三〜二十五年度科学研究費助成事業若手研究(B)・研究課題番号 23720111・『石清水物語』第三系統諸伝本に関する本文研究及び校本作成」による研究成果の一部である。

(みやざき ゆうこ・九州産業大学国際文化学部講師)